

「絶対トクする！学生バイト術」を使って賃金UP！

「絶対トクする！」を購入した東洋大の1年生が、バイト先のコンビニで、最賃以下の時給を指摘し、時給アップを勝ち取りました。今年就職した人が、「絶対トクする！」の本を読んで交渉して、月給を14万円から17万円に引き上げてもらっています。

寄せられた感想

勉強していたつもりだったが、他にも色々労働者の権利が多くあると知って驚いた。

私が特に共感できたのは前書きにある、『大切なことは誰も教えてくれない』という言葉です。

私は22歳のフリーターですが、ごく最近まで労基法の知識は持っていませんでしたし、一流大学の学生でもそれは変わりません。

友人の一人は「バイト先は有給が発生しても教えてくれなかったし、とくに、忙しいプロジェクトにいる人には絶対に教えようとしなんだ」と言っていました。

また、別の友人は正社員なのですが、会社から「残業代は15分単位でつける」と言われて鵜呑みにしていました。

商業高校の先生方で心ある方は授業に労基法を取り入れる試みをなさっていると伺っていますが、まだ多くの生徒たちが『知らない』ために理不尽な待遇に甘んじているのです。

ですから、この本は生徒や学生に限らずフリーターなど多くの社会人にとっても必要な本であるといえます。

読ませていただいたら、マンガもおもしろく、クイズも、解説もわかりやすく、これなら読書が苦手な学生も、実体験にひきつけつつ、興味をもって学べるかも。

さすが、実践のなかで練り上げられた、教師が書いた本！と、その技に感動さえ覚えました。

必要な人に必要な知識、情報を伝えようとする、熱意と愛情のようなものも伝わってきました。

本を開いて見て、マンガがあって、クイズNo.1～No.17があってそれぞれ、裏のページに解答と説明がある。

スピーディに読み、理解することができた。

今アルバイトをしている人たちに必読の本だと思います。

えっ！そんなことできるの！と驚くことがあります。知らないと損です。

大変読みやすく、一気に読みました。

ポケットに入るのがいいですね。知ってとくすることが書いてあるのでついつい先が楽しみになります。とても参考になりました。

本を早速我家で下の息子に読ませ

ました。

マンガがあるととっつきやすいようで、珍しく読んでいました。

「オレのバイトいろいろ違反してるけど、条件のことを話すのが難しいんだ」といっていましたが、知っていると知らないでは大違いですね。

劇団の若い子にもクイズをやってみたら皆興味シンシンでした。

いろいろ活用できそうです。
(劇団の演出家Hさん)

息子に送ってみました。

あまりこういう関係は話したことはなかったのですが、ちょっと聞いたらバイト先で待遇に不満があったので、労基署に行ってみようというので、労基署に行ってみようというので、改めて感じました。

労働問題に興味がない子でしたが、そういう青年でも考えざるを得ないような状況になっているのだなということも、改めて感じました。

「バイト術」に大反響があることを期待しています。

さっそく拝読いたしました。

さすが高校生向けだけあり、頭にスッと入ってきて、恥ずかしながら今回初めて耳にした情報も二、三あった次第です。

高校生の授業用だけでなく、わず

かな時間で必要最小限の労働ルールを学ぶ一般用としても活用できるのではないのでしょうか。

値段も手ごろです。こういう手軽な出版物こそ、いまの時代に求められていると痛感します。

知人の紹介で購読しました。

身近な高校3年(アルバイト生)に、「『有給』使ったことある？」と聞いたら、「それ、何ですか？」「有給休暇のこと。」と言うと、「アルバイトに、有給休暇なんてあるんですか？」予想通りの答えでした。

アルバイト生の権利を知るためのとても分かりやすい本です。

各ページがマンガで導入されているので、気楽に開けます。

小学2年の息子も、マンガ本として読んでいました。

中身に興味を持ったのかは不明ですが・・・

アルバイト学生本人はもちろん、身近な大学生・高校生に是非紹介したい本です。

絶対トクする！
学生バイト術
携帯用
ホームページ



「POSSE」のブログに、掲載された書評

今回は『絶対トクする！学生バイト術』を紹介したいと思います。

この本は千葉県の高教諭である角谷信一さんが書かれた「働く上でのルール」を学ぶための本です。読者として想定しているのは主にアルバイトをしている高校生・大学生・専門学校生です。内容は漫画やクイズを交えながらアルバイトをする上で知っていれば得する実践的な労働法の知識を学ぶことができるというものになっています。労働法を学ぶことができるといっても決して堅苦しくなく、労働法のクイズに挑戦していきただけで無理なく「使える」知識が身につくようになっています。

「絶対トクする」というタイトルからハウツー本のように技術的な得をするテクニックのようなものをずっと書いていられるのかと思われる方もいるかもしれませんが、漫画でも過労死やコンビニのフランチャイズ契約のつらさなどがさりげなく触れられていたり、単にテクニックにとどまらない内容になっています。最後にはバイトでも、高校生でも労働組合に入ることができるということまで言及されています。自分が労働法を「使える」ようになったら友達や職場の同僚とも知識を共有し、労働組合などを通して労働条件を改善してい



く。つまり、「みんなでトクをする」ことが大事なんだということまで含んだ「絶対トクする！」ということです。このように本書は単なるハウツー以上のものとなっています。

もともとこの本は角谷さんが高校で労働法の知識を授業で学生に伝える実践を通して教材として作成したものです。アルバイトの現場では高校生は最低賃金以下の賃金で働かせられたり、有給を

取れなかったり(本書でも指摘してあるようにアルバイトでも一定の要件を満たせば有給は取得できます)、ただ働きをさせられたりといった違法な状態がはびこっています。この本は、このような現状に対して教育の場でより実践的な労働法の知識を学生に伝えるための試行錯誤から生まれてきたそうです。この労働法の授業は「得する授業」ということで、学生たちの反応も非常に良いということです。